

上海における教育コストについて

上海駐在員事務所

秘書 王一

上海市社会科学院が発表した調査レポートによると、上海で一人の子供が生まれてから大学を卒業するまでに掛かる養育費(教育費、食費、衣料費等)の総額は、約 49 万人民元(約 784 万円)になると試算されています。一方、上海市統計局が発表した 2007 年度の上海市民の平均月収は 2,996 人民元(約 4.8 万円)であることから、夫婦共働きの家庭では家計の約 30%が子育てに関する支出となります。

家計の大きな割合を占める養育費の内、特に注目すべきは教育費です。上海の一般的な公立幼稚園の保育費は 500 人民元/月(約 0.8 万円)程度ですが、教育熱心な親達は保育費が 5 倍以上もする私立幼稚園に子供を入園させたりします。小中学校については、中国の義務教育制度の規定により、学費は無料ですが、小中学生の大半が塾や家庭教師の他、ピアノ等の習い事をしているため、これらの費用が 1,000 人民元(1.6 万円)から 3,000 人民元程度(4.8 万円)かかっています。



・小学校の校門で子供の下校を待つ大勢の親たち

また、公立の小中学校については「择校費」と呼ばれる費用を入学希望校に納めれば居住学区以外の有名校に越境入学することができます。この「择校費」の相場は 3 万人民元(約 48 万円)以上であるにも関わらず、越境入学の希望者は後を絶ちません。

なぜ中国ではここまで、子供の教育にお金を費やすのでしょうか？

ひとつは、一人っ子政策の影響があります。親だけでなく祖父母にとっても、たった一人の「小皇帝」は生活の中心になりやすく、愛する子供のために多大な出費をしてしまうのです。

次に「学校の成績が良い子供だけが良い将来を約束されている」と考える現代中国の風潮があります。親や祖父母同士の世間話でも、お互いの子供や孫を他の家庭と比較するような話題が多く、子供の成績が自分の「面子」に直接係わってくることも過剰な教育熱を更に助長しているようです。

上海では夜遅くまで宿題に追われる小中学生の生活が社会問題となったことも影響し、上海市教育委員会の指針に基づき「ゆとり教育」が実施されています。上海版「ゆとり教育」では、小学 1、2 年生については学校が宿題を出すことを全面的に禁止している他、学年ごとのテスト科目や履修すべき漢字数を削減する等、子供の負担を減らすべく細かな指導制限が規定されています。

しかしながら、教育産業が急成長していることや、親が直接子供に学習課題を出す風潮があること等から、ハードな子供の生活はなかなか改善できていないのが実情です。

やはり、子供は自由で健康的に発育するのが一番です。上海の子供たちが余裕をもった生活を送ることにより、満面の笑顔で成長していくことを願っています。

以上